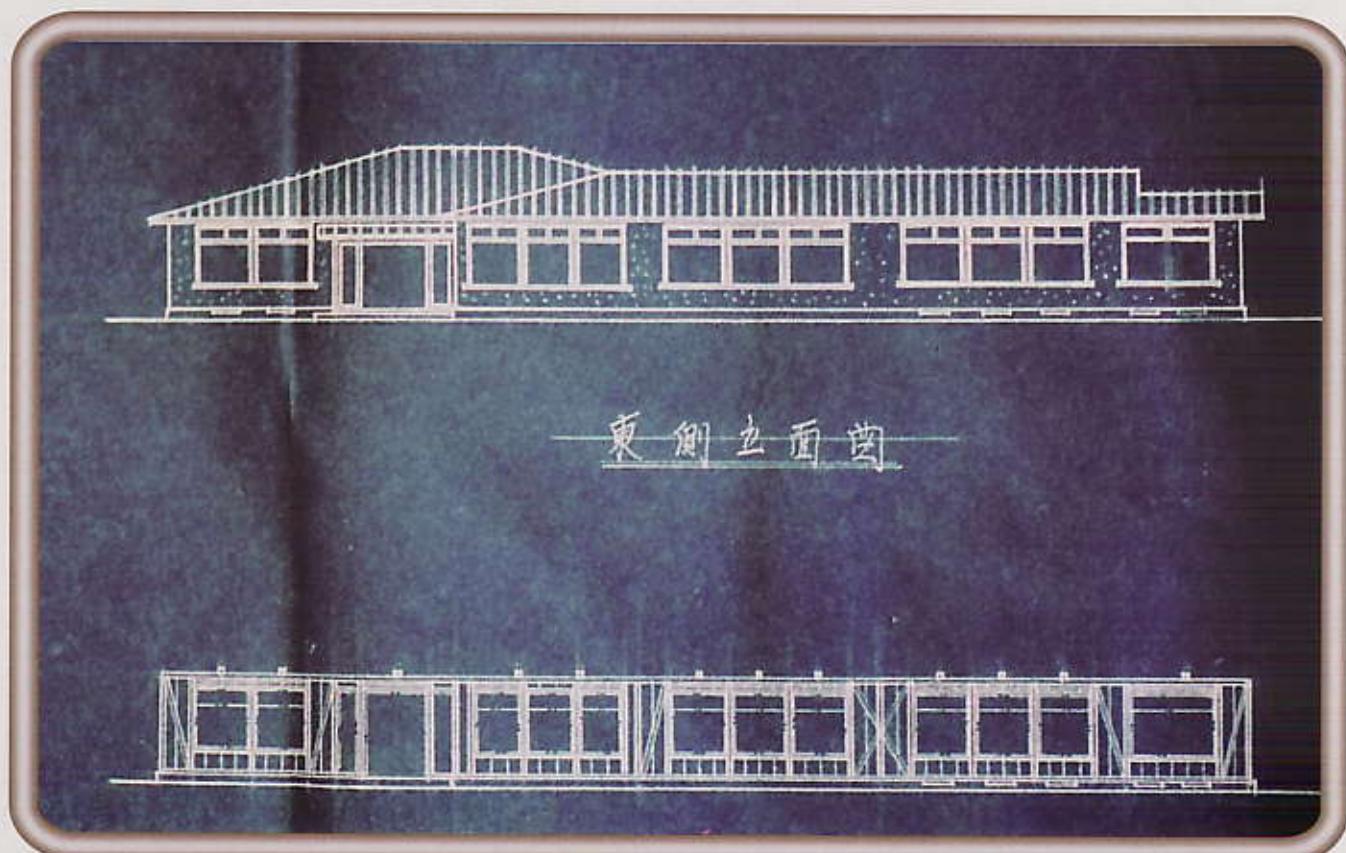


寒川文書館だより

Vol. 7



公民館の設計図面（昭和34年）

■第7号目次

資料紹介	2
進む公文書劣化対策事業／寒川の先人たち	3
第7回企画展「寒川村ができたころ」	4
収蔵庫の資料から（4）	5
文書館 最近のできごと	6・7

第7号
2010.3.31
寒川文書館

資料紹介「公民館の設計図面」

(寒川町蔵)

表紙の写真は、昭和34年（1959）に作成された公民館の設計図面のうち立面図です。平面図とともに、町の永年保存文書に綴られています。

寒川の公民館の歴史は昭和24年に始まります。旧相模海軍工廠の工員寮だった建物を使って昭和22年に開校した寒川中学校の校舎の一角に創設されたもので、講堂など中学校との兼用スペースも含めて212坪（約700m²）という規模でした。初代館長はちょうど寒川小学校の校長を退職したばかりの加藤丘之助です。彼は郷土史や文学に造詣が深く、「詩人町長」として文化事業に力を注いだ真田喜一町長に請われての就任でした。ここで農村文化講座、成人学級、裁縫塾「みどり女学院」など時代の先端を行く諸事業が展開されました。

しかし、講座が活発になって手狭になったうえ、中学校校舎の建て替えの必要性もあり、公民館は寒川小学校の隣へ移転することになりました。総工費は920万円。ホール、図書室、講座室、会議室などを備えた約620m²という規模で設計がなされました。着工は昭和34年9月でした。地鎮祭のようすが広報に掲載されるなど、町民の期待は実に大きなものでした。竣工は翌年の2月で、開館記念式典は昭和35年2月13日に行われています。

新しい公民館の建設に関しては、新生活協議会の存在を抜きに語ることはできません。

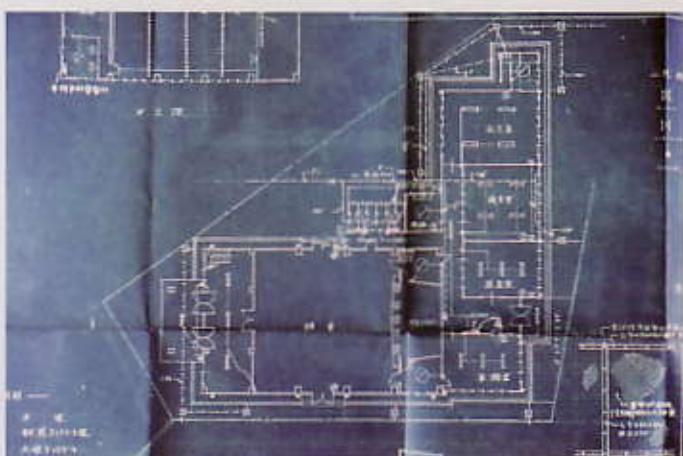
新生活運動は、冠婚葬祭や日常生活において虚礼廢止や簡素化を掲げて、昭和20年代以降、全国的に展開されたもので、寒川町においても青年団や婦人会の有志が「さつまグループ」を結成して、モデル地区の視察をしたり模擬結婚式を実施したりするなど、新しい結婚式のスタイルを模索してきました。公民館の新築移転の計画が持ち上がった際、公民館を公営結婚式場

として利用できるようにとの運動を進めたのもこのグループでした。

公民館の設計図面は、実際に建設された表紙のもののほか、いくつかのプランがありました。その一つの案には、ホールは「結婚式場、披露宴会場にする」、講習室は「披露宴の調理室にする」、会議室は「新婦側控室」などとメモ書きされており、結婚式場としての利用をかなり具体的に検討していたことがわかります。

昭和37年、さつまグループは新生活協議会と改称され、昭和38年2月、同会の運営により最初の公営結婚式が行われました。町長または公民館長の立会いのもと、婚姻届に署名捺印する式は昭和41年まで続けられ、十数組の夫婦が誕生しました。

その後も寒川町公民館は、50年もの長きにわたり、寒川の生涯学習の拠点として、また人々の集う場として、町民にとって大きな役割を果たし続けてきましたが、耐震性の問題等から平成22年3月末をもって休館となりました。8月31日まで開催中の「寒川町公民館の50年」と題した文書館の展示は、この公民館の果たしてきた役割を検証し、後世に記録と記憶を伝えていくために企画しました。ここに紹介した設計図のパネルも展示中です。ぜひご覧ください。 (高木秀彰)



公民館の設計図（平面図）

進む公文書劣化対策事業

平成21年11月から22年3月末まで、文書館で保管している公文書を守るために事業を推進しています。これは、国の緊急雇用創出事業臨時特例基金事業を活用したもので、(有)資料保存器材に委託して実施しています。

公文書に付いているクリップやホチキス針などの金具をはずすこと、文書をこよりで綴じ直すこと、感熱紙で印字された文書を複写して綴り込むこと、酸性段ボールから中性の保存箱に移し替えることなどの作業を、6名の新規雇用者と1名の会社スタッフで進めています。これにより平成10年度以前の460箱あまりの公文書が永く保存できることになります。



文書を綴じ直す作業
(寒川文書館写真室にて)



保存箱への詰め替え作業
(寒川文書館収蔵庫にて)

シリーズ 寒川の先人たち

第6回：寒川出身の力士 一君ヶ浜一

明治時代に活躍した力士「君ヶ浜」は、本名を熊井市五郎といい、嘉永3年(1850)に宮山村雷で生まれました。少年時代を宮山で過ごしましたが、幼少期から力が強く、寒川神社の神輿の片方を一人で持ち上げたという逸話が残っています。上京して明治5年(1872)、厚木出身の力士荒角権平の門下となり、同15年には四股名「志子ヶ嶽」を名乗ります。その後、同21年には小田原出身の力士初代君ヶ浜の門下となり、翌22年に「君ヶ浜」と改名し、23年に引退しました。

現役生活18年、最高位は幕下二段目(十両)六枚目という成績でしたが、引退後も相撲界の重鎮として要職を歴任し、明治維新以後衰退していた相撲界の再興に尽力しました。とくに日清戦争の際には「力士義勇団」を結成し、軍部と相撲界のパイプ役を果たしました。

(椿田有希子)



君ヶ浜の墓 (東京都港区妙像寺)

＜第7回企画展＞

「寒川村ができたころ —120年前の世界—」

寒川町の前身である寒川村は、「市制・町村制」により、11か村が合併して明治22年(1889)4月に成立しました。それからちょうど120年になるのを記念して、当時の公文書、写真、日記などを用いながら、村の成り立ちや行政の始まり、人々のくらしなどをご紹介しました。

1889年ごろの世界

寒川村ができた1889年の日本や世界に眼を向けてみると、パリのエッフェル塔の完成、「喜劇王」チャップリンの生誕など、私たちのよく知っているさまざまなできごとがほぼ同時に起こっており、それらを写真で紹介しました。



エッフェル塔の完成



横須賀線の開業



初代村長 入沢知周



明治期の寒川村役場

町村制と寒川村

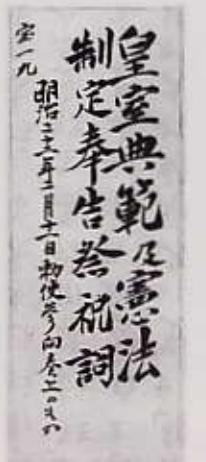
村の成りたち、村長・議員など行政を担った人々、役場の設置、財政に関する資料、表などを展示しました。

A historical ledger from the Kajiwara family. The table has columns for date, description, and amount. The handwriting is in traditional Japanese characters.

北村嘉右衛門家の家計簿

寒川そのとき

1889年前後には、日本を大きく変えるさまざまな制度が誕生しました。そのとき寒川では、どのような対応があったのでしょうか。いくつかの事例を紹介しました。

A table with text in Japanese, likely a proclamation or notice related to the constitution and imperial household code.

教育勅語奉戴訓示

皇室典範及憲法制定奉告祝詞

【展示期間】平成21年9月6日(日)～22年2月28日(日)

収蔵庫の資料から (4)

文書館の収蔵庫には、皆様から寄贈や寄託していただいた貴重な記録資料や写真をはじめ、寒川の歴史を物語るさまざまな資料を保存しています。今回もその一端をご紹介してまいります。いずれも閲覧できますので、ご希望の方は気軽にカウンターまでお申し出ください。

五島家旧蔵文書



倉見の大規模な地主の旧蔵文書で、寒川村農会や村議会に関する綴などがあります。綴には農会の会則や通知書、農会評議員総代会議案など、大正時代の農会に関する様々な資料が含まれています。

斎藤維男家文書



江戸時代のものと思われる百人一首1点。絵札はなく、下の句のみを記した取り札と、それぞれの句と解説が記された冊子が木箱に入っていました。冊子を読み上げながら遊んだのでしょうか。全て手書きで作られています。

秘書担当移管スクラップブック



全77冊。昭和63年4月から平成6年3月まで、新聞各紙に掲載された寒川町の話題や行政運営情報に関する記事を中心にスクラップしたもの。現在、ボランティアの皆さんの協力を得て、整理が進められています。

三沢一雄家文書「想像画」



小谷の故三沢一雄氏が、描きためたスケッチを平成3年に自ら製本したもの。氏の記憶や体験に基づき、戦前から昭和30年代頃までの寒川の風景や生活のようすが、ボールペンで緻密に描かれています。昔懐かしい情景が鮮明に蘇ってくるようです。

文書館 最近のできごと

■古文書講座 9月26日(土)



今年も古文書講座を5月から10月まで開講しました。このうち9月には、双六遊びを行いました。教材として用いた「泰平武家昇進双六」(一之宮 入沢章氏蔵)は、18世紀後半に作られたもので、文字の学習のみならず、江戸幕府の職制をわかりやすく学ぶことのできる格好の素材です。当日は、受講者の方々が4グループに分かれ、幕府の役職について講師の解説を聞きながら、旗本が出世する様子を味わっていただきました。

■懐かし映像上映会 11月3日(火)



総合図書館との共催で「懐かし映像上映会」を開きました。3回目の実施となる今回は、祭礼にスポットをあて、20分ほどのビデオ作品3本を上映しました。内容は国府祭、浜降祭、一之宮八幡大神のものです。特に県立図書館から借りた国府祭のビデオは昭和47年の作品とあって、祭礼の中身もさることながら、鑑賞されたみなさんが周りに映る風景にも感嘆の声をあげていたのが印象的でした。

■町史講座「さむかわ用水路ものがたり」 11月14日(土)



町史講座は、町史刊行物の執筆者みずからが、担当した内容をわかりやすく解説する講演会です。今回は東海大学准教授馬場弘臣さんに、江戸時代の用水路についてお話しいただきました。事前に現地を歩いて撮っておいた写真を画面に映し、さらに関連資料や地図などを満載したボリュームのあるレジュメを参照しながら、堰の管理のようすなどを詳しく教えていただくことができました。

■中世史講座「梶原景時の史料を読む」 11月28日(土)~



平成21年11月から22年2月にかけて、全4回で中世史講座「梶原景時の史料を読むⅢ」を開催しました。毎年定員を超える申し込みがあり、景時に対する関心の町民のみなさんの関心の高さが窺えました。3回目となる今年は、吾妻鏡だけでなく、源平盛衰記や平家物語などの軍記物語を多く取り入れたり、景時一族の詠んだ歌を紹介したりと、バラエティーに富んだ構成になりました。

■史跡ウォーク 12月6日(日)



今年も生涯学習課主催の史跡ウォークに講師として参加しました。今回歩いたのは宮山地区です。古文書講座で宮山村の明細帳や村絵図をテキストにしたことから、史跡の現況と絵図とを比べながら歩けるようコースを選定しました。役場を起点に所要時間は約2時間。途中、寒川神社のご協力で、この年の夏にオープンした神嶽山神苑や方徳資料館を拝観することもできました。

■神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会の研究会 2月4日(木)



この協議会は、神奈川県内の公文書館や自治体史編さんなどの担当機関が会員となり、日頃から資料の保存・活用などについて研究や研修を行っています。この日は「公文書の評価選別」がテーマで、県立公文書館と寒川文書館でどのように業務を実施しているか、担当者が事例報告を行いました。寒川町では評価選別基準や公開基準を策定すべく検討中であるとし、その素案を紹介しました。

■寒川中学校職場訪問 2月9日(火)



寒川中学校1年生4名が、総合的学習の時間の一環として総合図書館と文書館に来館しました。図書館の業務について事前に寄せられた質問に答える形で進めましたが、文書館の役割や図書館との違いについても説明したうえで、施設見学をしてもらいました。後日送られてきた礼状に、「寒川のことを調べるときはぜひ4階を利用したい」と書き添えてくれた生徒もいて、館への理解が少しでも深まることは成果でした。

■公民館まつりの取材 2月21日(日)



3月から開催する企画展「寒川町公民館の50年」の準備のため、公民館まつりの撮影に行きました。公民館は昭和35年に開設され50周年を迎えたものの、耐震性の問題等から3月末で休館するため、この場所では最後の公民館まつりとなりました。当日は大勢の来館者で大賑わいでした。舞台下に「50年ありがとう　さようなら」と大書きされた横断幕からは、利用者のみなさんの想いが込められているように見受けられました。

新刊のご案内

利用案内

■開催中の展示のお知らせ

第8回企画展

「寒川町公民館の50年」

寒川町公民館は昭和35年(1960)、寒川小学校の隣に開設されました。以来、50年もの間、町の生涯学習の拠点として多くの町民に親しまれてきましたが、この3月で休館となります。この50年のあゆみを公文書や写真から紹介します。

会期 平成22年3月7日(日)~8月30日(日)

今後の事業予定

■平成22年度の講座・講演会

平成22年度は次の講座等を実施する予定です。日時、会場、申込み方法など、詳しいことは「広報さむかわ」、文書館のホームページ、チラシなどをご覧ください。

- 古文書講座(全6回、5~10月)
- 中世史講座(全4回、11~2月)
- 町史講座(1回、時期・テーマ未定)
- 資料保存活用講演会(1回、時期・テーマ未定)

編集後記

寒川文書館だより第7号をお届けします。

今回ご紹介しましたとおり、国の緊急雇用創出事業臨時特例基金事業を活用して、平成21年度は公文書劣化対策事業を実施することができました。公文書を永く保存するため、文書に付いている金具を取り除き、保存箱に収納する作業です。また平成22年度は、同じ補助金で現用公文書のデータベースを作る作業を検討しています。これにより、紙で管理していた文書の台帳がパソコンで検索できるようになり、情報公開の目録にも、文書館への引き継ぎ台帳にも使えるようになる予定です。文書館における非現用公文書の公開の準備も進めており、これからも公文書管理法への対応を一步ずつ前進させてまいります。

ホームページもご覧ください

ホームページでは文書館からのお知らせ、所蔵資料のご案内のほか、さまざまなコンテンツをご提供しています。ぜひいちどアクセスしてみてください。

ホームページアドレスは右の通りです。

■開館時間

火曜~金曜日 午前9時~午後7時
土・日・祝日 午前9時~午後5時

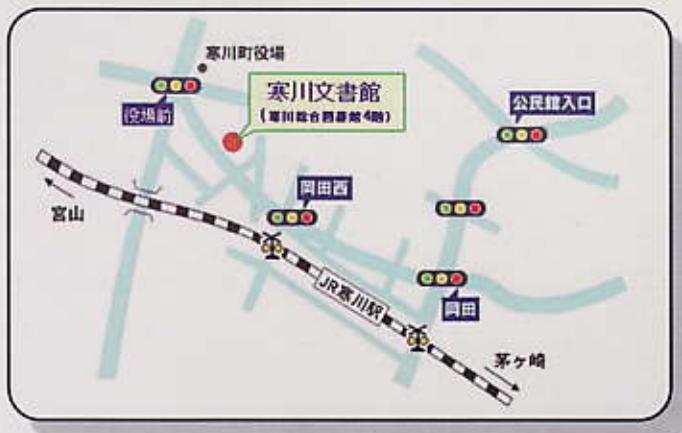
■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)
年末年始(12月29日~1月3日)
特別整理日(決まり次第お知らせします)

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分

寒川町コミュニティバス 図書館文書館前下車 徒歩1分
※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第7号

平成22年3月31日

編集・発行/寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp